

希望坂(北中だより)

第18号 令和6年3月5日

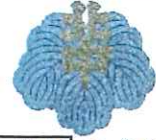
みやき町立北茂安中学校

校長 古賀 健司

<https://www.education.saga.jp/hp/kitashigeyasu-j/>



学校教育目標



「夢や目標をもち

チャレンジ精神と思いやりの心に

満ちあふれた生徒の育成」

◇2年生「立志式」◇

2月17日(土)、2年生は「立志式」を行いました。今年は保護者の皆様をお迎えし、3年ぶりに体育館での実施となりました。

生徒たちは、これまでの自分を振り返り、自分を高めるために心掛けること、自分らしく生きていくために大切にしたいことなど、それぞれの思いを色紙に書いた一文字に込め、同じ学年の生徒全員と保護者の皆様に向かって一生懸命に語ってくれました。これまで育ててくれた親への感謝の気持ちや、自分を成長させるという本気が伝わってきて、とても頼もしく思いました。参加した保護者様からも生徒一人一人に温かな拍手を贈っておられ、温かい気持ちになりました。

私からは、決意した生徒の皆さんの成長、そして笑顔あふれる未来を信じるという思いを込めて、「信」の言葉を贈ります。

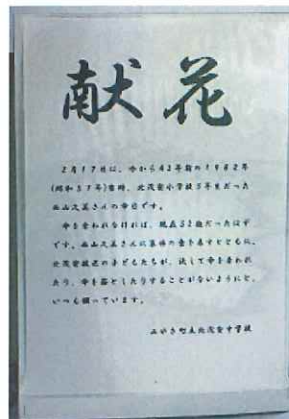


◇令和5年度「北茂安中 献花の日」◇

2月17日(土)、今から42年前、当時小学校5年生だった西山久美さんの命をしのび、花を手向(たむ)ける「献花」を行いました。

当日は体育館の北側にて、生徒会長の山田孔大さんと副会長の氏原萌衣さんが生徒を代表して花をお供えするとともに、久美さんやご家族、地域の安全に尽力してこられた方々に思いを馳せながら、命を大事にする決意を述べました。2月19日(月)には、放送で全校生徒に「献花」の報告をするとともに、命を大切にすることについて思いを伝えてくれました。

校内には献花台を設けています。前を通る生徒一人一人が命について感じてくれればと思います。



◇2年生 AED講習会◇

2月21日(水)、西消防署員の皆さんを講師としてお招きし、AED講習会を実施しました。

一般市民が心肺蘇生を実施した場合の救命率は15.2%。それでも心肺蘇生を実施しなかった場合と比べ、命を救える確率は約2倍になるそうです。

日本において、倒れた人を見かけた際約57.9%の人が心肺蘇生を開始しているとのデータがあります。かけがえのない命が救われることを願い、より多くの人が勇気をもって適切に行動できるよう、このような取組を着実に実施していきたいと思えます。



◇ある宮大工の言葉◇

昨年、鶴工舎の元棟梁小川三夫さんのお話を伺う機会がありました。小川さんは法隆寺宮大工、西岡常一氏の唯一の内弟子としても有名です。宮大工としての生き方を貫いてこられた方の言葉は深く、人を育てることや、生き方について考える機会となりました。心に残ったいくつかの言葉をご紹介します。

・職人は、言い訳しない。東大寺の柱を職人がどうやってつくったか記録がない。西岡さんは柱と向き合い、建立当時の職人が何を考えどうしたのかを、時間を超えて理解していた。からだの記憶(培った智恵と技)がないと理解することはできない。

・道具の手入れに毎日何時間も使う。斧を研げと言われたら、「針になってしまった」と言えるまで研ぐ。切れる道具をもつと、それに見合ったものをつくりたくなる。つくったものに不満が残る。それが次の原動力になる。そういう人を育てる。あまい生活は執念を育てない。

・手道具を十分に使えないと職人になれない。手道具を十分に使える人は電動工具を120%使いこなすことができる。

・(長期にわたってお寺などの修復を行う) 宮大工の仕事は一人ではできない。自己中心では、できない。相手をいたわるやさしさと思いやりにないと、長い時間一緒に生活できない。

・一方から風を受けて育った木はよじれる。宮大工が使う大きな木は、押さえ込むことができない。くせを読むことが大切。四方八方から見れば、どこか良いところが見える。あばれる使いづらい木も使い方によっては役に立つ。(建物の)はりの部分に使う。使いやすい木ばかり使っているのは、1000年以上もつようなものではない。

・今を精一杯に生きることで、うそ偽りのないものが次の世代に残る。本物とはいつの世も感じられるもの。

